

0 はじめに

駒場博物館資料室は、国内外の展覧会カタログなどの貴重な資料を10年にわたり収集してきました。その収集には、総合文化研究科・比較文学比較文化研究室の院生委員が運営する「展覧会・カタログ評院生委員会」（以下、院生委員会）が大きく関わってきました。院生委員会では、全国約 200 の美術館、文学館などのミュージアムで、その年ごとに開催される展覧会の情報を調査し、展覧会調査一覧表としてまとめています。この展覧会調査一覧表をもとに、駒場博物館のスタッフが配架資料を選定・購入し、資料室の蔵書を年々充実させています。加えて院生委員会では、東大比較文學會が発行する学術雑誌『比較文學研究』に毎号掲載されている「展覧会・カタログ評」の対象となる展覧会と、その評者を毎年推薦してきました。これまで歴代委員と教職員によって受け継がれてきた10年間の重みを噛み締め、院生委員会の足跡を活字に記録することを目的とし、この冊子が作成されました。

内容は大きく3つに分かれています。まず1では、院生委員会の活動趣旨を紹介し、駒場博物館との連携図などをあわせ、その役割を簡潔にまとめています。2では、主要な5つの院生委員会活動を記録しています。年度毎の院生委員会の仕事は、年表で概観できます。次いで、我々の活動の主眼のひとつである「展覧会・カタログ評」の題目を過去に溯り、全てを一覧にまとめて掲載しました。また、院生委員が主体的に残した近年の成果として、東大比較文學會ホームページ内の院生委員会掲示板に執筆した展覧会・カタログの寸評やおすすめ記事がありますが、その粋を集めた寸評精選を特集しています。さらに、本記録のために実施した歴代委員へのインタビューからは、院生委員の生の声が伝わってきます。活動記録の最後には、歴代院生委員の名簿一覧をまとめました。過去の活動から、現委員の活躍へと眼を移していただけることでしょうか。

3は、駒場博物館に関する記録となっています。3.1では、資料室の利用状況——具体的には2007年度以降の学内、学外の利用者別での、当日閲覧・貸出・特別貸出などの利用状況、複写依頼、利用図書合計などが一目でわかるようになっています。併せて利用者数推移もグラフにしています。最後に資料室紹介記事では、利用者から見た資料室という観点から、「アート・ドキュメンテーション通信」に掲載された見学記を紹介しています。

本冊子の作成には、今橋映子教授、比較文学比較文化研究室、駒場博物館、東大比較文學會のご協力を得ました。ここに感謝の意を表します。

展覧会・カタログ評院生委員会委員長 古舘 遼

10周年記念イベント委員長 岩瀬 慧

1 展覧会・カタログ評院生委員会とは

1.1 院生委員会活動趣旨

東大比較文學會より年2回発行されている学術雑誌『比較文學研究』には、毎号2～3本の「展覧会・カタログ評」が掲載されます。これは、全国の美術館・文学館などのミュージアムで開催される展覧会のうち、比較文学比較文化研究に通じるような、学際的な企画展に注目し、学術刊行物としての展覧会カタログと併せて批評するもので、多彩な専門分野をカバーする当コースの卒業生・大学院生によって執筆されています。

「展覧会・カタログ評院生委員会」は、若手研究者の執筆の機会を拡大するという目的のもとに、比較文学比較文化研究室の在学生によって2004年10月に組織されました。主な活動内容は、全国のおよそ200館のミュージアムで開催される企画展の年間スケジュールを調査した上で、博士課程以上の大学院生及び卒業生の中から、展覧会・カタログ評の執筆者、ならびに評の対象となる展覧会の候補を選定し、『比較文學研究』の編集委員会に推薦する*というものです。発足以来、委員会による展覧会・カタログ評が、毎号1～2本ほど掲載されています。

*当委員会の役割は『比較文學研究』編集委員会に推薦することであり、実際に執筆された展覧会・カタログ評の最終的な採否は、『比較文學研究』編集委員会の査読によります。

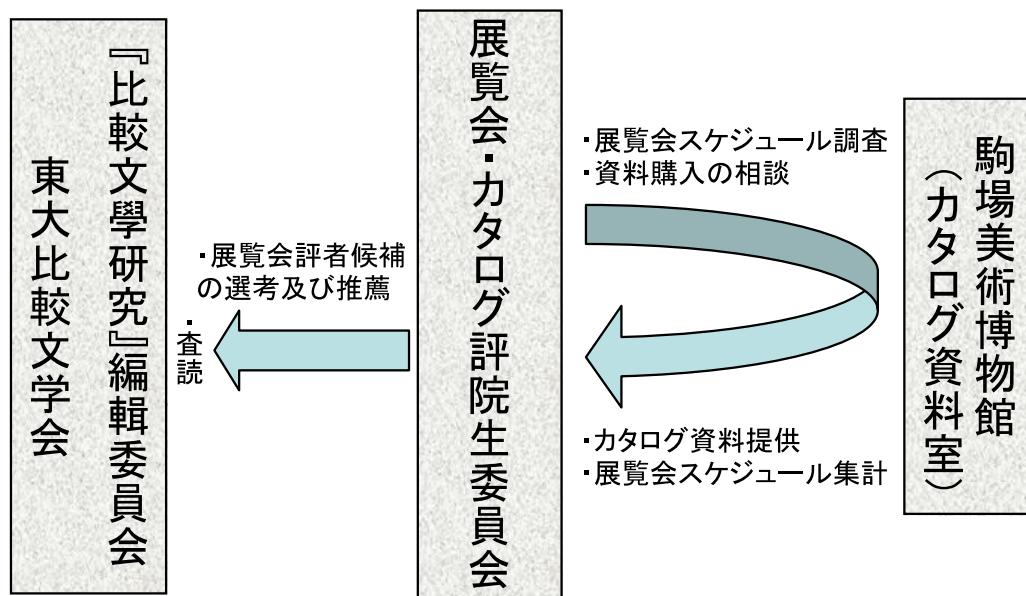
→参照：<http://www.todai-hikaku.org/policy.php>



1.2 院生委員会と駒場博物館の連携

委員会が全国各地のミュージアムで催される企画展の年間スケジュールを調査する際、その集計には駒場博物館の協力を得ています。また、委員会が推薦した展覧会の他、有力な候補に挙げられた展覧会にあわせ発行されたカタログは、館のカタログ資料室に納められます。評者が執筆の際に利用できるだけでなく、手続きの上で、学外の方も良質な展覧会カタログを閲覧できる、国内でも有数のコレクションになっています。利用方法については駒場博物館 HP をご覧ください。

→参照：<http://museum.c.u-tokyo.ac.jp/library.html>



連携図

2 院生委員会活動記録

2.1 10年間の活動報告及び年表

第1回 2004年度（2004年10月～2005年7月）

委員長：信岡朝子 副委員長：永井久美子 副委員長：林三博
駒場博物館スタッフ：陳岡めぐみ

2004年10月28日（木） 第1回ミーティング 1) 各係、役職、任期、今後の活動内容の決定 2) 第2回ミーティングの日程を設定

2004年11月25日（木） 第2回ミーティング 『比較文学研究』第86号に推薦するカタログ評の展覧会/評者候補の確定

1) 「HANGA 東西交流の波」展（東京藝術大学大学美術館、2004年11月13日～2005年1月16日） 2) 「西洋が伝えた日本/日本が描いた異国」展（印刷博物館、2004年9月11日～12月12日） 3) 「フルクサス」展（うらわ美術館、2004年11月20日～2005年2月20日）

2004年12月中旬 第86号に推薦するカタログ&展覧会、ならびに評者の最終決定 「フルクサス」展（うらわ美術館）：小林将輝さん

2005年2月18日（金） 編輯委員会より小林将輝さんに正式依頼書類を送付

2005年4月8日（金） 代々木でのオリエンテーションにて、展覧会・カタログ評院生委員会の活動紹介ならびに新委員募集

2005年4月22日（金）

第1回ミーティング 1) 第87号の展覧会&評者候補の選出 2) 展覧会&美術館情報の収集手順 3) 簡単なマニュアル作成の段取り 4) 新委員候補の選出と引継ぎ日程の決定

2005年4月～5月中旬 2005年度全国展覧会開催予定表の作成（全員分担）

2005年5月6日(金) 第2回ミーティング 1) 展覧会一覧の調査・作成経過報告 2) 作成中の展覧会一覧を参考に、候補展覧会を選出

2005年5月19日(木) 第87号のカタログ&展覧会評の候補展ならびに評者候補の選定に関するアンケートメールを全委員に送付

2005年5月24日(火) 第87号の展覧会評に関するアンケートの集計結果をメールにて報告 *展覧会候補+評者候補選定

- 1) 「アジアのキュビスム—境界なき対話」展 (東京国立近代美術館(本館)、2005年8月9日~10月2日)
- 2) 「アジアの潜在力—海と島が育んだ美術」展 (愛知県美術館、2005年5月24日~7月10日)
- 3) 「ロシア民族学博物館アイヌ資料—ロシアが見た島国の人びと—」展 (川崎市市民ミュージアム、2005年7月2日~8月28日)
- 4) 「東アジア中世街道—海商・港・沈没船—」展 (国立歴史民俗博物館 2005年3月23日~5月22日 大阪歴史博物館、2005年7月6日~9月5日 山口県立萩美術館・浦上記念館、9月17日~11月27日)
- 5) 「アール・デコ—きらめくモダンの夢—」展 (東京都美術館、2005年4月16日~6月26日)
- 6) 「庭園植物記」展 (東京都庭園美術館、2005年9月3日~11月6日)
- 7) 「ジェームズ・アンソール—ベルギーが生んだ異端の芸術家」展 (東京都庭園美術館、2005年4月23日~6月12日)
- 8) 「浦和アトリエ村—画家と郊外」展 (うらわ美術館、2005年7月16日~10月10日)
- 9) 「ウナセラ・ディ・トーキョー ANOHIANOTOKIO—残像の東京物語 1935-1992」展 (世田谷美術館、2005年4月23日~5月29日)
10. 「ブラッサイ—ポンピドゥーセンターコレクション」展 (東京都写真美術館(2階)、2005年8月6日~9月25日)

2005年5月~6月 上位候補展から各院生評者候補に打診

2005年7月25日（月） 駒場博物館所蔵ポスター（1000枚）選別作業 新旧委員引継ぎ作業 懇親会

2005年8月22日（月） 第87号に推薦する展覧会&カタログ、ならびに評者の決定 「アジアのキュビズム—境界なき対話」展（東京国立近代美術館）：前島志保さん

第2回 2005年度（2005年10月～2006年7月）

委員長：佐々木悠介 副委員長：信岡朝子 副委員長：永井久美子
駒場博物館スタッフ：松尾薫、杉山菜穂子

<2005年後期>

2005年10月27日（木） 第1回ミーティング 第88号に推薦する展覧会及び評者の候補検討 1) 「ベトナム近代絵画の軌跡」展（東京ステーションギャラリー、2005年11月5日～12月11日） 2) 「東京—ベルリン／ベルリン—東京」展（森美術館、2006年1月28日～5月7日）

2005年10月下旬 第88号に推薦するカタログ&展覧会、ならびに評者の最終決定 「東京—ベルリン／ベルリン—東京」展（森美術館）：曾我晶子さん

2005年11月～12月 第89号の展覧会カタログ評に推薦する評者の検討 2005年度購入の展覧会カタログ発注作業（2004年度開催分） 2001年度～2003年度開催の展覧会カタログ在庫調査及び発注（各美術館、古書店） *今橋映子先生研究室坂田亜希子さん及び駒場博物館杉山菜穂子さんと共同作業

<2006年前期>

2006年4月～5月 2006年度の主な企画展日程調査、エクセル表作成

2006年6月 第89号推薦評者の候補検討 メール→打ち合わせ 1) 「台湾の女性 日本画家生誕100年記念 陳進」展（福岡アジア美術館、2006年7月30日～9月10日） 2) 「京都に咲いた洋画の「花」—浅井忠と関西美術院」展（府中市

美術館、2006年8月26日～10月9日) 3) 「山名文夫と熊田精華—絵と言葉のセンチメンタル」展 (目黒区美術館、2006年6月24日～9月3日) 4) 「ポーランド国立ウッチ美術館所蔵 ポーランド写真の100年」展 (松濤美術館、2006年7月25日～8月27日) 5) 「森鷗外と美術—石見人森林太郎、美術ヲ好ム」展 (島根県立石見美術館、2006年7月14日～8月28日 和歌山県立近代美術館、2006年9月10日～10月22日 静岡県立美術館、2006年11月7日～12月17日) 6) 「ドガ、ダリ、シャガールのバレエ—美術の身体表現」 (ポーラ美術館、2006年9月23日～2007年3月18日) ※9月からの展覧会のため、詳細は来期に検討。

2006年7月24日(月) 新旧委員引継ぎ作業 展覧会・カタログ評研究会 懇親会 *研究会ゲスト(カッコ内は合評者) 陳岡めぐみさん「もうひとつの楽園」展評(手島崇裕) 前島志保さん「アジアのキュビズム—境界なき対話」展評(深見麻) 曾我晶子さん「東京—ベルリン/ベルリン—東京」展評(永井久美子) 小林将輝さん「フルクサス」展評(佐々木悠介)

第3回 2006年度(2006年10月～2007年7月)

委員長:手島崇裕 副委員長:安藤智子 副委員長:林久美子
駒場博物館スタッフ:小泉順也

2006年7月24日(月) 新旧委員引継ぎ ※引継ぎ終了後、第1回ミーティングを待たず、HP掲載内容に関して、広報・HP担当と相談係を中心に議論(HP作成作業が予定より早まったため)。

7月25日(火) 見学会 「国宝「隨身庭騎絵巻」と男の美術」展(大倉集古館) 2005年度2006年度両委員による試み

9月7日(木) 駒場博物館収書計画WG第1回ミーティング 収書計画WGもHP同様、前倒しで活動開始。 ※駒場博物館収書計画WGについて・・・駒場博物館、特に同館資料室(カタログを所蔵)の充実をはかる。同室に必要で、かつ入手可能な美術資料、工具書、辞書類を検討し、購入にそなえる。OB・OGがかつて資料室の立ち上げにかかわった先輩方の意見も参考にさせて頂く。また、同室は2007年7月より一般の蔵書閲覧・利用が許可されるので、資料室の利用法についても院生の目線から意見を提言する。

9月14日（木） オーバル（HP制作会社）さんとのHPに関する打ち合わせ 正・副委員長とHP制作担当者さんとの会議。

10月5日（木） 第1回ミーティング 議題 1) 各委員の仕事分担、仕事内容の確認 2) HPの作成状況報告と掲載内容の検討 3) 駒場博物館収書計画WG 第1回ミーティング内容報告 4) 『比較文學研究』90号に推薦する展覧会・評者候補の選定 主な候補（執筆候補者については省略） ・「石内都」展（写真美術館、9月23日～11月5日） ・浦上玉堂展（千葉市美術館、11月3日～12月3日） ・「ルソーの見た夢、ルソーの見る夢」展（世田谷美術館、10月7日～12月10日） ・「森鷗外と美術」展（静岡県立美術館、11月7日～12月17日） ・イメージの迷宮に棲む、柄澤齊」展（神奈川県立近代美術館鎌倉館、10月28日～12月24日） ・「揺らぐ近代、日本画と洋画のはざままで」展（東京国立近代美術館、11月7日～12月24日）

10月13日（金） オーバルさんとのHPに関する打ち合わせ 委員長とHP制作担当者との会議。レイアウト第2校受け取り。

11月22日（水） 拡大MLの立ち上げ ※前々期・前期の委員やカタログ委員会関係者を含む拡大版ML。ゆるやかなつながりを保ち、登録メンバーとの研究上のリンク継続を期待。

11月22日（水） 第2回ミーティング 議題：『比較文學研究』90号推薦展覧会、及び評者の候補選定 追加候補として、「ぼくらの小松崎茂」展（逓信総合博物館）が挙がる。

12月7日（木） 第90号に推薦するカタログ&展覧会、ならびに評者の最終決定 「イメージの迷宮に棲む、柄澤齊」展（神奈川県立近代美術館鎌倉館）：安藤智子さん

12月8日（金） 見学会 「ビル・ヴィオラ：はつゆめ」展（森美術館）

12月26日（火） HP仮公開

2007年2月20日（火） 駒場博物館収書計画WG第2回ミーティング

3月12日（月） 国立新美術館アトライブラリー、バックヤード等見学会

4月1日（日）HP公開

4月1日～末日 2007年度展覧会開催調査

4月28日～6月13日 2007年度比較文学比較文化コース所属院生専門分野アンケート

6月1日（金）『比較文学研究』91号推薦展覧会、及び評者の候補選定開始（MLを利用）

6月25日（月）駒場美術博物館資料室開室式（同室見学会及び懇親会）への参加

7月5日（木）第3回ミーティング 議題：『比較文学研究』91号推薦展覧会、及び評者の候補選定 主な候補 1) 「パリへー洋画家たち百年の夢」展（MOA美術館） 2) 「ル・コルビュジエ」展（森美術館） 3) 「舞台芸術の世界 —ディアギレフのロシアバレエと舞台デザイン」展（東京都庭園美術館） 4) 「青山二郎の眼 白洲正子の物語も小林秀雄の骨董もこの男から始まった」展（世田谷美術館） その他、9月以降開催の展覧会数点

7月9日（月）第91号に推薦するカタログ・展覧会、ならびに評者の最終決定 「大正シック」展（静岡県立美術館）：深見麻さん

7月23日（月）新年度委員会への引継ぎ

第4回 2007年度（2007年10月～2008年7月）

委員長：林久美子 副委員長：手島崇裕 副委員長：韓程善 副委員長：定村来人

駒場博物館スタッフ：小泉順也

2007年7月23日（月）引継ぎ及び第1回文学館プロジェクトミーティング 全体での引継ぎ式の前に、2007年度の企画である文学館プロジェクトの第1回ミーティングを行う。（韓程善さんが作成した全国の文学館リストから各文学館で行われた展覧会・カタログを調査し、どこの文学館の企画が充実しているか把握する。） →10月末までに分担して調査

10月4日(木)「夏目漱石」展見学会及び第1回ミーティング 「夏目漱石」展(江戸東京博物館)見学 ミーティング内容 ・『比較文学研究』92号に推薦する展覧会・評者候補の選定について、第2回ミーティングまでに各自候補を絞る ・候補選定に関して、委員である任期の1年のうち、1回は展覧会情報を寄せる ・HP活性化のため、展覧会情報を積極的に寸評欄に載せる

11月19日(月)第2回文学館プロジェクトミーティング 各文学館の調査をした感想から、文学館、カタログの充実度を把握 →今後調査すべき文学館リスト(林久美子さん作成)

11月27日(火)第2回ミーティング 議題:『比較文学研究』92号推薦展覧会、及び評者の候補選定 ※前委員会からの引継ぎ、及び事前のメールリストでの意見交換なども踏まえ、以下の候補に絞る。 1)「パリへ 洋画家たち百年の夢」展(林久美子さん)→確定 2)「パラオーふたつの人生 鬼才・中島敦と日本のゴッホ・土方久功」展(→その後、菅原克也先生のご推薦で下見兼評者候補を蔡暉映さんに) 次点「北斎—ヨーロッパを魅了した江戸の絵師」展(江戸東京博物館、12月4日～2008年1月27日) 次点「誌上のユートピア 絵画と美術雑誌の交感—1889～1915」展(神奈川県立近代美術館葉山館、2008年1月26日～3月9日)→会期終了間近なため、「百学連環」展は見送り

2008年1月10日(木)「文学館情報およびカタログリスト」(韓程善さん作成)

2月4日(月)「美術博物館資料室で購入したカタログリスト」(小泉順也さん作成)をMLで配布

3月26日～ 展覧会情報調査に加えるべき文学館最終確認(今橋映子先生・小泉順也さん・韓程善さん・定村来人さん・林久美子さん) →4月3日 調査に追加する文学館リスト(韓程善さん作成)

4月4日（金）比較文学比較文化コース オリエンテーションにて 当委員会の紹介と院生に対する専門分野アンケートのお願い

4月6日（日）「2007年度末に資料室で購入した文学館カタログリスト」（小泉順也さん作成）

4月7日（月）～27日（日）2008年度展覧会情報調査

5月19日（月）2008年度展覧会情報リスト MLにて配布

5月27日～6月4日 2008年度比較文学比較文化コース所属院生専門分野アンケート調査

5月27日（火）MLを用いて『比較文学研究』93号推薦展覧会、及び評者の候補選定開始 92号の候補であった「パラオ」展（蔡暉映さん）を93号の候補として再推薦

6月8日（日）2008年度院生専門分野アンケートリストMLにて配布

6月12日（木）『比較文学研究』93号に「パラオ」展（蔡暉映さん）を推薦確定

6月22日（日）・メール等で挙げられた93号推薦展覧会候補を10点に絞る ・「大岩オスカー」展（立花拓さん）のみ評者も候補として挙げられる ・会期終了間近だったため、下見なしで直接見学してもらおう → 7月13日「大岩オスカー」展（立花拓さん）内定

7月18日（金）引継ぎ（93号の推薦展・評者正式決定） 議題：93号の推薦展について「大岩オスカー」展（立花拓さん） → 正式決定

第5回 2008年度（2008年10月～2009年7月）

委員長：安藤智子 副委員長：佐々木悠介 副委員長：林久美子
駒場博物館スタッフ：小泉順也

2008年11月25日（火）1）『比較文学研究』94号に推薦する展覧会カタログとその評者の推薦を選考 西田桐子さん（D1）、「沖縄・プリズム（1872-2008）」展 川島健さん（OB）、「十二の旅-感性と経験のイギリス美術」展
2）今後の検討課題として挙げた展覧会 「石内都」展（目黒区立美術館）、「杉本博」展（金沢21世紀美術館）、「蜷川実花」展（オペラシティー）、「アーツ・アンド・クラフツ」展（松下電工汐留ミュージアム）、「生活と芸術—アーツ・アンド・クラフツ」展（東京都美術館）、「ミリオンセラー誕生へ！」展（印刷美術館）、「氾濫するイメージ」展（うらわ美術館）、「朝鮮王朝の絵画と日本—宗達、大雅、若沖も学んだ隣国の美」（栃木県立美術館、静岡県立美術館）、「レオナルド・フジタ」展（上野の森美術館）、「アジアとヨーロッパの肖像」展（神奈川県立歴史博物館・神奈川県立近代美術館葉山館）
3）文学館プロジェクトについては、2007年度の文学館プロジェクトを踏まえた上で、2008年度は調査対象となる文学館を20程度に絞り、それについての調査は美術館の調査と一緒にすることにする。文学館プロジェクト独立して行われるのではなく、上記の展覧会調査に吸収されることを確認。

6月8日（月）1）『比較文学研究』95号に推薦する展覧会カタログとその評者 大嶋仁先生（福岡大）、「福沢諭吉」展が決定されたことを報告 吉岡知子さん（埼玉県美、D2）、「日本の表現主義」展を委員会として推薦・以下の展覧会について引き続き候補として検討することを確認 「太宰治と美術」展（青森県立美術館）、「維新とフランス」展（東京大学総合研究博物館）「白樺派の愛した美術」展（宇都宮、神奈川県立近代美術館葉山館）、「京都学」展（京都国立近代美術館）
2）展覧会調査リストに追加する美術館を検討

7月17日（金）2009年度新メンバーへの引継ぎ会：新旧メンバーの顔合わせ、次年度の展覧会情報調査のフォーマットの検討、寺田寅彦先生から「展覧会カタログについて」のお話

※展覧会カタログ、評者についての情報共有。

11月12日（木）カタログ委員会で必要な展覧会カタログ購入の呼びかけ

11月28日(土) 2009年度購入の展覧会カタログのリストを配布(小泉順也さんより)

3月12日(木)～4月20日(月) 2009年度展覧会情報調査を依頼

5月8日(金) 2009年度展覧会情報調査リストを配布

5月1日(金)～5月12日(火) 2009年度院生専門分野アンケートを依頼

6月6日(土) 2009年度院生専門分野アンケートリストを配布

※その他

8月8日(土)「コロ展」(国立西洋美術館)見学会

4月6日～4月7日 比較研究室のオリエンテーションにて活動内容の紹介、チラシの配布、駒場博物館資料室の見学

第6回 2009年度(2009年10月～2010年9月)

委員長：定村来人 副委員長：安永麻里絵 副委員長：任ダハム

駒場博物館スタッフ：川野恵子

2009年7月17日(金) 引継ぎ会 新委員の役割分担。MLメンバーリストの更新。2009年度委員会の活動目標：1) 全国企画展一覧表(エクセル表)の精緻化及び利便度の向上。2) HP上の「展覧会寸評」ブログの活用。3) 駒場美術博物館カタログ資料室との連携の強化。資料室利用方法の見直し。

7月18日～21日 全国企画展調査用エクセル表フォーマット改善についてメールでのやりとり(第1回)。7月29日～31日 調査リストから抜けていた美術館、博物館の追加作業(第1回)

11月17日～25日 全国企画展調査用エクセル表フォーマット改善についてメールでのやりとり(第2回)及び担当委員と委員長の小ミーティング(20日)

11月26日(木) 第1回委員会ミーティング ミーティング内容

- ・全国企画展調査用エクセル表フォーマット改善について担当委員からの説明。
→フォーマットは例年通りのものを使用。巡回展の抜出しを作業内容に加える。
- ・『比較文学研究』96号に推薦する展覧会・評者候補の検討。→「木村伊兵衛とアンリ・カルティエ＝ブレッソン」展(東京都写真美術館、2009年11月28日～2010年2月7日)の下見依頼を決定。

→その他、「白樺派が愛した美術」展（神奈川県立近代美術館葉山館）、「太宰治と美術」展（青森県立美術館）、「ファッションの欲望 ラグジュアリー」展（東京都現代美術館）、「DOGU」展（大英博物館）と「国宝 土偶」展（東京国立博物館）などが候補に挙げられた。

駒場博物館カタログ資料室の利用環境に関して委員の意見を聞く。→新着カタログの扱いについての提案。→リクエストのシステム化についての提案。→委員代表と駒場博物館のスタッフの方との間でミーティングの機会を設ける。

・HPの「展覧会寸評」ブログの活用方法について意見交換。→駒場博物館カタログ資料室の新着カタログの書誌情報をアップすることを検討。→内覧会に行った人は「内覧会報告」をブログで行うようにする。

12月7日（月）今橋映子先生、委員長（定村来人さん）、副委員長（安永麻里絵さん）の三者ミーティング・第1回委員会ミーティングで話し合われた内容について確認。

・11日に予定されている駒場博物館スタッフ（坪井久美子さん）とのミーティングに向けて、話し合うべき内容の確認。

・『比較文学研究』96号に推薦する展覧会・評者候補に関して：→「木村伊兵衛とアンリ・カルティエ＝ブレッソン」展は取り上げないことに決定。→「杉浦非水」展（宇都宮美術館）を新たに有力候補として挙げる。→その他の候補：「オブジェの方へ—変貌する「本」の世界」展（浦和美術館）、「ターナーから印象派へ」展（府中市立美術館）、「江戸の粋・明治の技 ZESHIN 柴田是真」展（三井記念美術館）など。

12月11日（金）第1回駒場博物館×院生委員会ミーティング・院生委員会メンバーの資料室利用について：→現委員及び過去に委員を経験した現役院生は、平日（月～金、10:00～18:00）は事務室で鍵を借りて資料室に入り（開架式として）利用することができることとする。→そのため院生委員会は現役院生の委員メンバーのリストを作成して駒場博物館に提出する。→駒場博物館は特別利用フォームをより使いやすいものに改定する。→新委員になる人々は引継ぎのときに特別利用フォームを受け取り、その場で今橋映子先生の印をもらえるようにする。

・新着カタログの扱いについて：→駒場博物館は、新着カタログを優先してOPAC登録できるように図書館と交渉する。→駒場博物館の事務室内に新着カタログ

のコーナーを設ける。→新着カタログ情報を院生委員会 HP のブログにアップする。

・カタログ購入のリクエストのシステム化について：→駒場博物館は、図書館の Web リクエストサービスを使ってリクエストができるように図書館と交渉する。→院生委員会は、全国企画展年間リスト制作後に委員会の総意としてのカタログ購入リクエスト（あくまでも希望として）をまとめ、駒場博物館に提出するステップを設ける。

2010年1月21日（木）『比較文學研究』96号掲載展覧会・カタログ評は、三井記念美術館「ZESHIN 柴田是真」展、執筆者は定村来人さんに決定。

1月29日（金）新着カタログ情報のブログ掲載開始。

3月9日（火）駒場美術博物館に新着カタログコーナーを設置。また、4月から図書館のWebリクエストサービスを使ってリクエストができることが決定。司書の木村由美子さんのご尽力によりカタログ資料のOPAC登録がほぼ終了。

3月10日～29日 オリエンテーション用資料作成作業（メール連絡）。

4月2日～11日 調査リストから抜けていた美術館、博物館の追加作業（第2回）。

4月5日（月）、6日（火）新入生オリエンテーション

5日は委員長が新入生に委員会の説明をする。懇親会では新入生の勧誘を行う。

6日は駒場博物館の協力を得て、新入生及び現委員を対象に駒場博物館及びカタログ資料室の見学を行う。

4月13日（火）全国企画展調査を各委員に依頼。作業開始。

4月23日（金）現役院生の現・拡大委員メンバーのリストを作成して駒場博物館に提出。

5月5日（水）2010年度全国企画展一覧、完成版をMLで配布。

5月7日（金）院生専門分野アンケートへの協力を比較のML上で依頼。

6月1日（火）来季への引継ぎの日程を決定。（休み明けの10月に引継ぎを行うことを決定）

6月6日（日）院生専門分野アンケート結果、完成版をMLで配布。

7月13日（火）来季委員へメールで引継ぎの連絡。

9月2日（木）来季委員のMLへの登録。

9月28日（火）駒場博物館スタッフと次期委員長の顔合わせ、委員長の仕事（駒場博物館関連）の引継ぎ。

9月30日（木）委員長、次期委員長、次期副委員長の引継ぎミーティング。

10月4日（月）引継ぎ会 1) 引継会（15:30～17:00） 2) 駒場博物館「カタログ感謝祭」（17:00～18:00）資料室で副本が2冊目以上あるカタログおよそ300冊を、院生委員を務めてきた学生に譲ってくださるというイベント。 3) 懇親会（19:30～21:30）

2009年度委員会の成果： 1) 全国企画展一覧表のいっそうの充実を図ったこと。（調査対象ミュージアムの大幅追加、巡回展把握をよりシステムティックに行う工夫。） 2) HP上のブログを情報交換の場として利用する新たな試みを行ったこと。（内覧会報告、新着カタログ情報のアップ。） 3) 駒場博物館スタッフとの話し合いの場を持ち、資料室の利用方法の見直し、新着カタログの扱い（新着カタログコーナーの設置）、カタログ購入リクエストのシステム化（Webリクエストサービスの利用）につなげたこと。

※2009年度委員会の反省点

- ・全国企画展年間リスト制作後に院生委員会の総意としての購入リクエストをまとめ、駒場博物館に提出するステップを設ける案が出ていながら、今年度はそれを実行しなかったこと。
- ・院生専門分野アンケートフォームの見直しを行わなかったこと。
- ・ブログが本来の「展覧会寸評」の場としては、まだまだ十分に利用されていないこと。
- ・展覧会の見学会を行わなかったこと。

第7回 2010年度（2010年10月～2011年9月）

委員長：井口俊 副委員長：李ヒョンジュン 副委員長：堀江秀史
駒場博物館スタッフ：川野恵子、安永麻理絵

2010年 10月4日（月）新年度引継ぎ会 1) 新委員の役割分担（「ブログ利用」「見学会企画」の役割を新設） 2) 「全国企画展調査」「院生専門分野アンケート」「HP・ML管理」前年度委員からの引継ぎ事項の確認 3) 新年度委員会の活動目標設定 4) 委員会メーリングリストの更新

10月10日（日）東大比較文學會総会にて前年度委員会の活動及び、新年度委員会の発足を報告。

11月2日（火）第1回 委員会ミーティング 1) 新委員による引継ぎ報告 2) 「展覧会寸評」欄の活性化に向け投稿時のフォーマット作成に関する意見交換 3) 『比較文學研究』に推薦する評者、展覧会候補の検討 → 「橋本平八と北園克衛」展（世田谷美術館）、「大正イマジュリィの世界」展（渋谷区立松濤美術館）、「日本の新進作家展vol.9 [かがやきの瞬間] ニュー・スナップショット」展（東京都写真美術館）などが候補に挙がり、「橋本平八と北園克衛」展を委員会で見学し、「大正イマジュリィの世界」展、「ニュー・スナップショット」展には委員が下見に行くことを決定。

11月 企画展調査の際に用いるエクセル表の刷新、委員会専用メールアドレスの取得に関してメールでやり取りを行う。→データの集計作業の簡便化を可能にするエクセル表の作成。HP上に企画展情報が掲載されていない美術館、文学館に問い合わせるための共有メールアドレスを取得する。

12月12日（日）展覧会見学（於世田谷美術館） 1) 「橋本平八と北園克衛」展を委員有志で見学。見学の前には本展担当学芸員である世田谷美術館の野田尚稔さんより、展覧会、展覧会カタログの内容解説をしていただいた。
2) 『比較文學研究』へ推薦する展覧会を「橋本平八と北園克衛」、評者を博士課程水野太朗さんに決定。

2011年1月～3月 駒場博物館担当者へ新所蔵資料のリクエストを提出。4月に行われる新入生オリエンテーションにおいて行う予定の、駒場博物館見学会の打ち合わせをする。

3月 東日本大震災により被害にあった文化施設、文化財の状況、今後の対応等を今年度から追跡調査することを決定。それに伴い、「震災影響調査」を行うための新たなエクセル表を作成するべく打ち合わせを行う。

4月17日（日）比較文学比較文化研究室 新入生オリエンテーション → オリエンテーション内で委員会の説明、懇親会では新入生の勧誘を行う。本来は、オリエンテーションの2日目に新入生と共に駒場博物館および、カタログ資料室の見学を行う予定であったが、震災によりオリエンテーションの日程が変更となったため中止となった。

4月25日（月）第2回 委員会ミーティング 1) 新年度「全国企画展調査」に向け、担当委員から新エクセル表の説明、調査日程の確認 2) 「震災影響調査」を開始することを正式に決定 → 被害状況及び、休館情報、企画展の延期・中止などの情報を収集し、リスト化していく。2010年度だけの調査ではなく次年度以降も継続的に調査を行い、しかるべき時期に発表を行う場を設ける。

4月26日～5月8日「全国企画展調査」「震災影響調査」エクセル表を各委員に配布し、作業開始。

5月12日（月）駒場博物館との打ち合わせ →2010度から新たに用いた2種の調査表をどのようにカタログの収集等に利用していくか意見交換。集計が済んだ調査表の最終チェックは駒場博物館担当者が行うことを確認する。

5月25日（水）企画展調査表の完成版を委員会メーリングリストにて配布 6

月6日：院生専門分野アンケートを比較院生メーリングリストにて依頼 7月

17日：院生専門分野アンケートの完成版を比較院生メーリングリストにて配布

7月5日（火）次年度引継ぎに向け、現委員長、新委員長による第1回ミーティング

9月5日（月）委員長による第2回ミーティング 9月13日：相談係の永井久美子さん、信岡朝子さん、本年度で任期満了の旨、お伝えする。

10月4日（火）新年度引継ぎ会

第8回 2011年度（2011年10月～2012年9月）

委員長：堀江秀史 副委員長：伊藤由紀 副委員長：川辺和将

駒場博物館スタッフ：安永麻里絵、申ミンジョン

2011年10月4日（火）新年度引継ぎ会 議題 1) 委員会の性格・仕事内容の紹介 2) 役決め 3) 震災影響調査（2010年度実施）をどのように活かしていくか 4) 調査票の今後について

10月 引継ぎを各自進める。

11月4日（金）第1回委員会ミーティング

議題及び決定事項等 1) 引継ぎ状況確認 2) ブログ活用検討 3) 展覧会評推薦者選定 →以下の展覧会を、評の候補として挙げる。それに適した評者には別途打診を始める。

「生誕125年記念 萩原朔太郎」展（世田谷文学館）、「谷川俊太郎と絵本の仲間たち 堀内誠一・長新太・和田誠」（ちひろ美術館・東京）、「瀧口修造とマルセル・デュシャン」（千葉市美術館）、「渋谷ユートピア 1900 - 1945」（渋谷区立松濤美術館）、「脱ぐ絵画—日本のヌード 1880 - 1945」展（東京国立近代美術館（本館））

11月 ブログ活用に関して、「ブログ管理」の林久美子さん、「ブログ企画」の藤田千紘さん、佐藤弥生さんを中心に、継続的な改革の検討が始まる（～2012年9月）。

改革済み内容は以下。

カタログ評委員会ブログの変更状況について（2011 - 12年度） 作成：藤田千紘さん

【これまでの変更点】

1) カテゴリの分類（2011年11月）記事の一覧表示画面で、展覧会寸評と駒場博物館情報が混在していたのを修正。

現在は、〈東大比較文學會トップ〉→〈掲示板〉→〈展覧会・カタログ評院生委員会〉で全記事の新着情報が表示される。また、上記のページから〈展覧会寸評〉へ進むと、寸評のみの新着情報が表示される。

2) 記事へのタグ付け (2011年12月～) 各記事の内容に沿って、[寸評][美博][おすすめ]のタグを付与。(過去の記事も遡ってタグ付け済み)

[寸評]…従来の展覧会寸評 [美博]…駒場博物館からの新着資料情報など [おすすめ]…新カテゴリ。3～5行くらいの短い記事。展覧会紹介など

3) 投稿フォーム但し書きの変更 (2012年5月) 従来「東大比較文學會会員のみ投稿が可能です。」→現在「東大比較文學會会員および東大比較文学比較文化研究室所属の院生のみ投稿が可能です。」

4) HP仕様変更企画書の作成 (2012年5月) HPの仕様変更について企画書案(※別紙)をまとめ、今橋映子先生へ提出。

5) 比較MLでのブログ更新情報通知 (2012年6月～) ブログの更新情報を比較MLに投稿し、周知を図る。

—以上、ブログに関する変更点。その他、次年度以降も改革を継続中。

12月4日(日) 関連企画見学(「シンポジウム 展覧会カタログを斬る」 於国立新美術館) 当委員会にも関係の深いテーマに関して、今橋映子先生はじめ有識者による講演と討議が行われ、委員の多くが聴講した。

12月 駒場博物館担当者へ新所蔵資料のリクエストを提出。

2012年3月1日(木) 第2回委員会ミーティング 議題及び決定事項等

1) 2012年度展覧会調査に使うエクセル表の仕様について →2010-11年度に抜本的な票の改革が行われたが、それをどのように引き継いでいくかについて、話し合いが持たれた。従来版(2010年度以前)は、エクセルについて、基本的なノウハウのみが用いられており、引継ぎが比較的容易に行えることが魅力であったが、新票(2010-11年度)は、各委員の調査結果を集計する際の作業量が少ない(時間的に早くできる)点に魅力がある代わりに、割り振り担当者と取りまとめ担当者(駒場博物館担当者)に高度なエクセルの技術が求められるという問題(2011年度委員会のみならず、今後どのように引き継いでいくかという問題)があった。会議の結果、集計作業の簡便化には相当な利点があると判断されたため、以下の通り、新票の作成者である刀根直樹さん、古舘遼

さんに票の簡素化等を施して頂いた上で、新票を引き継いでいくこととなった。

*簡素化内容 (・削除項目：「震災影響」、「会期関係特記事項」、「イベント」、「内部伝達事項」 ・変更項目：「副題」入力欄の位置変更、「特設ページ」を「参考URL」と名称変更 ・保留項目：「キーワード」※「キーワード」は、統計上の有効性が考えにくい点から削除の案が出るも、とりあえず2011年度は使用しないこととし、今後の使用の判断はその都度の委員会に委ねることとした。)

*マニュアルの変更内容 ・昨年配布された2種類の入力者用マニュアルを一つに統一。(・今後、館を追加(あるいは削除、変更)する必要がある場合、そのときの担当者が確実に変えられるよう、担当者用マニュアル(「展覧会情報の集計」や「キーワード集計」も含めたもの)を作成してもらおう。※なお、2011年度はこのように判断したが、将来万一不都合が生じたときのために、従来版は委員長が元データを代々引継いでいくこととする。)

2) 震災影響に関して →2010度に行われた特別な調査は、今年には行わないということに決まる。なお、昨年度に集まったデータは、今橋先生に内容を見て頂き、今後の動向を判断して頂く。

3) 『比較文学研究』展覧会・カタログ評欄の今期委員会推薦者 →以下の2名に決定。・98号 金志映さん「生誕125年 萩原朔太郎」展(世田谷文学館)・99号 任ダハムさん「開館30周年記念特別展渋谷ユートピア1900-1945—帝都をのぞみ、武蔵野に棲む—」展(松濤美術館)

4) 東大比較文学會寸評ブログ活性化企画

4月3日(火)～4月4日(水) 比較文学比較文化コース 新入生オリエンテーション →オリエンテーション内で委員会の説明、懇親会では新入生の勧誘を行う。オリエンテーション2日目には、新入生と共に駒場博物館及び、カタログ資料室の見学を行った。

4月10日～24日 2012年度展覧会調査

5月 展覧会調査の結果を駒場博物館担当者が集計、完成した表を各方面へ送付、共有。

7月 院生専門分野アンケートの実施、送付。

10月4日（木）新年度引継ぎ会 委員長・古舘遼さん、副委員長・西田桐子さん、岩瀬慧さんの新体制で発足。

12月21日（金）東大比較文學會総会にて、活動報告。

第9回 2012年度（2012年10月～2013年9月）

委員長：古舘遼 副委員長：岩瀬慧 副委員長：西田桐子

駒場博物館スタッフ：申ミンジョン

2012年10月4日（木）新年度引継ぎ会

議題 1) 調査票説明、調査マニュアル、震災影響調査の検討 2) ブログ活性化へ向けて →担当ごとの引継ぎ、委員長への報告。

10月31日（月）第1回ミーティング

議題 1) 引継ぎ状況確認 2) ブログ活用検討 →SNSなどの併用について検討（今後、引き続き検討することに） 3) 展覧会・カタログ評で取り上げる展覧会、執筆者について全メンバーより募った案を検討 →議論と投票の結果、以下の展覧会を選定。

・「維新の洋画家 川村清雄」展（江戸東京博物館）／評者候補：申ミンジョンさん ・「アートと音楽-新たな共感覚をもとめて」展（東京都現代美術館）／同：三松幸雄さん・「国立トレチャコフ美術館所蔵 レーピン展」（Bunkamura ザ・ミュージアム）／同：松枝佳奈さん
→「維新の洋画家 川村清雄」展を見学することに決定

11月17日（土）第1回見学会

「維新の洋画家 川村清雄」展（江戸東京博物館）見学。
見学後、同展担当者の落合則子さんよりお話を頂く。その後、館内のカフェでお茶会。

12月20日（木）委員長引継ぎ

前委員長、現委員長の間で、委員長の作業について再度確認。引継ぎ方法について見直し。

2013年1月12日（土）第2回見学会

「生誕100年 松本竣介」展（世田谷美術館）見学。見学後、渋谷で懇親会。

3月6日（水）第2回ミーティング

議題 1) 展覧会・カタログ評の依頼について報告（委員長より）

「維新の洋画家 川村清雄」展（江戸東京博物館）、「アートと音楽-新たな共感覚をもとめて」展（東京都現代美術館）の両展覧会について、候補者より執筆の承諾を得た。「国立トレチャコフ美術館所蔵 レーピン展」

（Bunkamura ザ・ミュージアム）については10月に議論が尽くされなかったため、再度決議し、承認。

2) 新MLの不具合について →後日、無事利用可能に。

3) これまでに執筆された展覧会・カタログ評のWebサイトへのアップについて（前委員長より）

4) ブログの活性化について

→リレー形式による執筆、海外に渡航した委員への執筆依頼を決定。

辛重官さんより、写真掲載と、ミラーブログの運用について提案。今後の検討課題に。執筆のための目安を作成することに決定。ブログ担当者、副委員長に依頼。

5) 展覧会調査について（加来杏沙子、農頭美穂さんさんより）

→調査期間を2011年度より前倒し、4月23日を〆切とすることに決定。

巡回展については、調査票の備考欄にできるだけ記載。取りまとめは従来通り、駒場博物館TAが行う。調査対象の見直しを、調査の過程で行い、次回ミーティングで検討することに。電話利用について、細かい内容を詰める。→電話マニュアルに反映。

2013年4月3日（水）～4月4日（木）比較文学比較文化コース オリエンテーション

→1日目に委員会の紹介、懇親会での勧誘。2日目に、駒場博物館及びカタログ資料室の見学会。（これに先立ち、紹介資料の増補を副委員長に

依頼、歴代委員のコメント追加)

2013年4月9日(火)～4月23日(火) 2013年度展覧会調査

→5月、集計により完成した表を各方面へ送付、共有。

6月22日(土) 10周年祭に関する最初の打ち合わせ

今橋映子先生、委員長、副委員長、王詩芬さんによるミーティング。副委員長を中心に、準備始動。

→関係記録(名簿、年表、展覧会・カタログ評一覧、コメント一覧)作成へ。

7月1日(月) 第3回ミーティング

議題 1) 今年度展覧会調査の報告及び課題(加来杏沙子さん、農頭美穂さんより)

→完全な情報が得られない館についてどうするか、教職員にご協議頂くことに。

2) 10周年祭について(岩瀬慧さんより)

→告知の範囲(学会レベルまで)を決定。ポスター、チラシ作成(岩瀬慧さん)

→寺田寅彦先生のお取次ぎにより、「比較芸術フォーラム」として比較コースの公式行事に承認。

3) ブログ執筆要項作成報告(西田桐子さんより)

→どのような読者を想定するのか、タグの使い分けなどについて議論。

→議論の内容を要項に反映。

4) 展覧会一覧表の活用について(辛重官さんより)

→Webサイト開設の提案 →今後の検討課題に。

2013年7月7日(日)～7月21日(日) 院生専門分野アンケートの実施 →8月18日完成、全体に共有。

8月 東大比較文学會 Web サイトのバージョンアップに伴う確認作業

→伊藤由紀さん、堀江秀史さん、西田桐子さん、岩瀬慧さん、松枝佳奈さんに行って頂く。

9月 相談役の交代、新体制へ

10月3日（木）引継ぎ会

以下が、各年度の年度別テーマとなっている。

年度	年度別テーマ
2004	カタログ資料室開室準備、従来の資料室の整理
2005	カタログ資料室開室準備、調査エクセル作成
2006	カタログ資料室開室準備、ホームページ開設準備
2007.6.25 資料室開室	
2007	文学館プロジェクト（調査対象に文学館を組み込む）
2008	文学館プロジェクトと従来調査の合併
2009	カタログ資料室利用方法改善
2010	調査エクセル更新、震災調査
2011	調査エクセル調整、ブログ活用
2012	10周年祭企画実行、ブログ活用
2013	カタログ資料室広報、10周年記録完成

駒場博物館 資料室担当スタッフ一覧

2004年4月1日～2005年1月31日	陳岡めぐみ
2005年4月1日～2005年7月31日	松尾薫
2005年8月1日～2006年9月30日	杉山菜穂子
2006年10月1日～2009年6月30日	小泉順也
2009年7月1日～2011年3月31日	川野恵子
2011年4月1日～2012年3月31日	安永麻里絵
2012年4月1日～2013年7月31日	申ミンジョン
2013年10月1日～2014年3月31日	中津海裕子